

### (3) 養老線沿線市町の主要計画の整理

#### ① 大垣市

##### 1) 大垣市第五次総合計画（H20.3：計画期間 2008～2017）

###### a) まちづくりの目標（基本構想）

###### ○まちづくりの基本理念

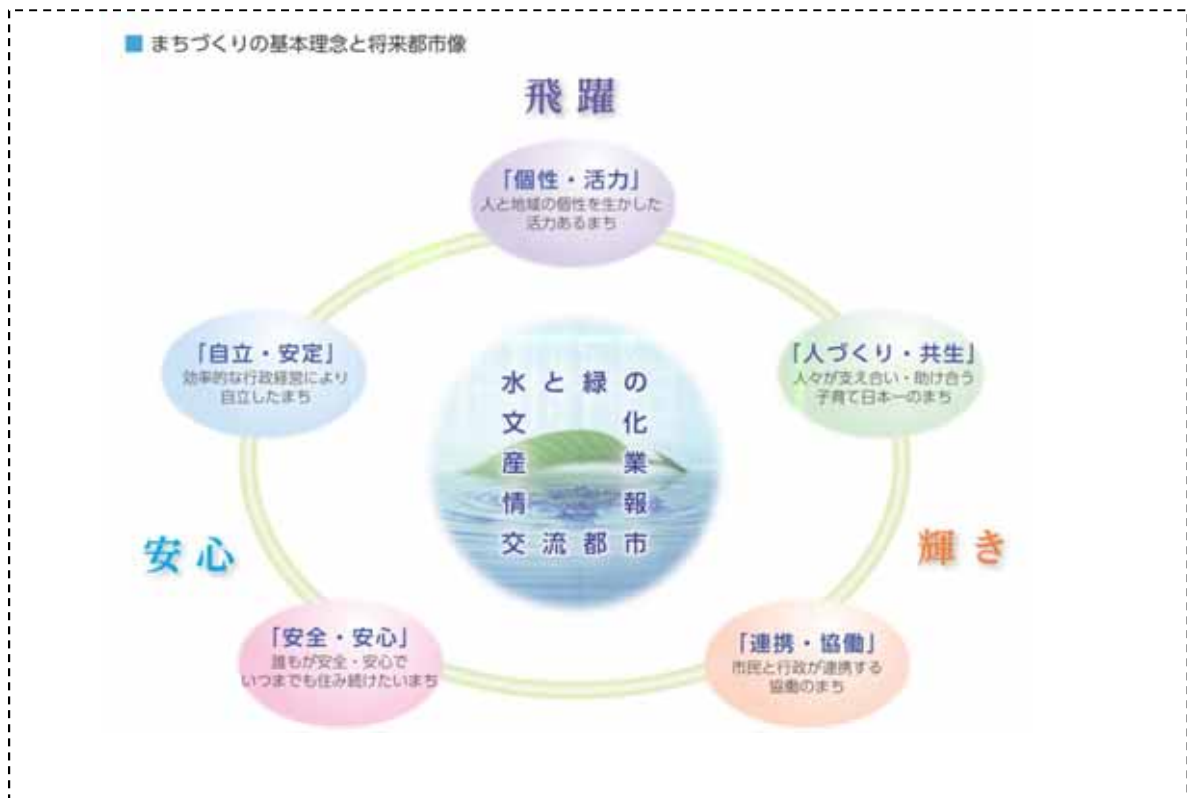
「飛躍」：人と地域の個性を生かした活力あるまち

「輝き」：人々が支え合い・助け合う子育て日本一のまち  
市民と行政が連携する協働のまち

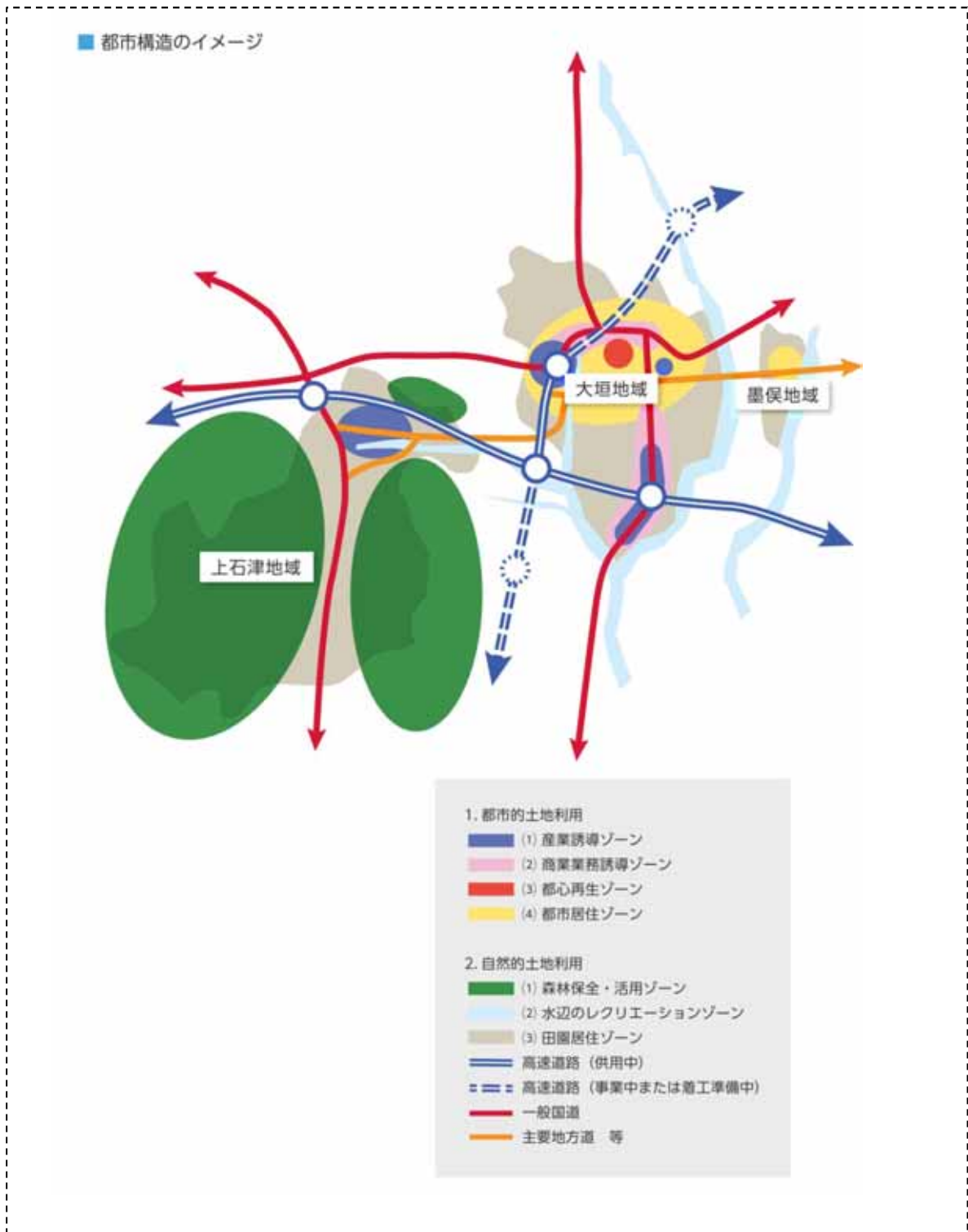
「安心」：誰もが安全・安心でいつまでも住み続けたいまち  
効率的な行政経営により自立した町

###### ○将来都市像

「水と緑の文化・産業・情報・交流都市」



b) 土地利用の方針（基本構想）



### c) 分野別計画（後期基本計画）（計画期間：2013-2017）

分野別計画の「第1節 快適で機能的なまちづくり（都市基盤）」において、公共交通の維持・利用促進、公共交通を軸に歩行者・自転車と連携した交通体系の確立等が示されている。

## 2. 交通・情報ネットワークの整備

### (1) 総合交通

#### ①現状と課題

1. 自動車交通の増大は、交通渋滞や事故の多発、環境負荷の増加、公共交通機関の衰退など、様々な問題が生じる原因となります。このため、自動車交通と公共交通の適切な役割分担のもと、歩行者や自転車との連携を図った、総合的な交通体系の確立が求められています。
2. 市内の鉄道やバスなどの公共交通機関は、自動車を運転しない高齢者や障がい者、学生などの重要な移動手段ですが、利用者の減少などにより、経営状態が悪化しています。このため、地域の状況に応じた効率的な運行形態への見直しや利用促進を図る必要があります。
3. 大垣駅周辺地区では放置自転車の増加が課題となっています。このため、自転車駐車場の整備を図るとともに、平成23年(2011年)5月に「大垣市自転車等の放置の防止に関する条例」を制定するなど、放置自転車の防止対策に積極的に取り組んでいます。

#### ②施策の方向

##### 1. 交通体系の確立

公共交通を軸に歩行者や自転車と連携した交通体系の確立に向けた検討を行います。また、地域の实情にあわせた公共交通機関の運行形態の見直しを行い、利用促進を図ります。

##### [主な事業・施策]

事業・施策の内容
1. 交通体系の確立に向けた検討
2. 公共交通機関の維持
3. 公共交通機関の利用促進
4. 公共交通施設・設備のバリアフリー化の促進

##### [目標指標]

目標指標名	自主運行バスの実車走行キロ当たりの輸送人員（人）		
基準値 (基準年度)	0.90 (H23)	目標 (H29)	0.90

## 2)大垣都市計画区域マスタープラン (H22. 8. 27 変更 : 目標年次 H32)

### a) 都市づくりの基本理念

#### ○都市づくり基本理念

「水と緑と情報～快適で安全な生活空間」

#### ○まちづくりの方針

- ・住民と行政の協働によるまちづくり
- ・活気に満ちた交流の盛んなまちづくり
- ・水と緑を生かした快適なまちづくり
- ・安全で人にやさしいまちづくり

### b) 交通施設の都市計画の決定の方針

交通結節点の機能改善など利便性の高い公共交通システムの整備が示されている。

#### ①基本方針（公共交通）

○自動車を中心とするライフスタイルが定着する中、地球規模の環境問題への対応や、高齢者や障がい者等の交通弱者の移動手段の確保といった観点から、鉄道やバス等の公共交通機関の必要性が再認識されており、今後は多様な交通手段の選択が可能となる利便性の高いまちづくりを進める。

#### ②主要な施設配置の方針（公共交通）

○本区域の公共交通システムは、東西にJR東海道本線、樽見鉄道、南北に養老線が鉄道網を形成し、これらを補完するシステムとしてバスが運行されている。今後は、これらの基本システムをベースに、自動車交通に過度に依存することのない都市交通システムを確立するため、交通結節点の機能改善など利便性の高い公共交通システムの整備を検討する。また、不採算のバス路線が廃止されつつあることから、地域の実情に合わせたコミュニティバス等、市町バス事業の検討を含め、バス路線網の維持・拡充を進めるとともに、当面は、既存の公共交通機関相互の連絡改善を進めます。

※公共交通に関連する事項を中心に要約

## ② 桑名市

### 1) 総合計画（桑名市のあたらしい計画 2015 - 2024）

#### a) 桑名市の将来像（基本構想）

「次世代へと続く 快適な暮らしの中で ゆるぎない魅力が 本物として 成長し続けるまち 桑名」

- 将来像1：快適な暮らしを次世代にも誇れるまち
- 将来像2：桑名市の魅力が自他ともに認められるまち

#### b) 桑名市の将来像を実現するための7つのビジョン（基本構想）

- ①中央集権型から全員参加型の市政に
- ②命を守ることが最優先
- ③こどもを3人育てられるまち
- ④世界に向けて開かれたまち
- ⑤地理的優位性を活かした元気なまち
- ⑥桑名をまちごと『ブランド』に
- ⑦納税者の視点で次の世代に責任ある財政に

### 5 地理的優位性を活かした元気なまち

桑名市は日本の東西・南北を結ぶ交通・物流の要衝にあり、また、日本のものづくりの中核で経済力をもつ愛知県・名古屋市と三重県をつなぐ結節点でもあります。

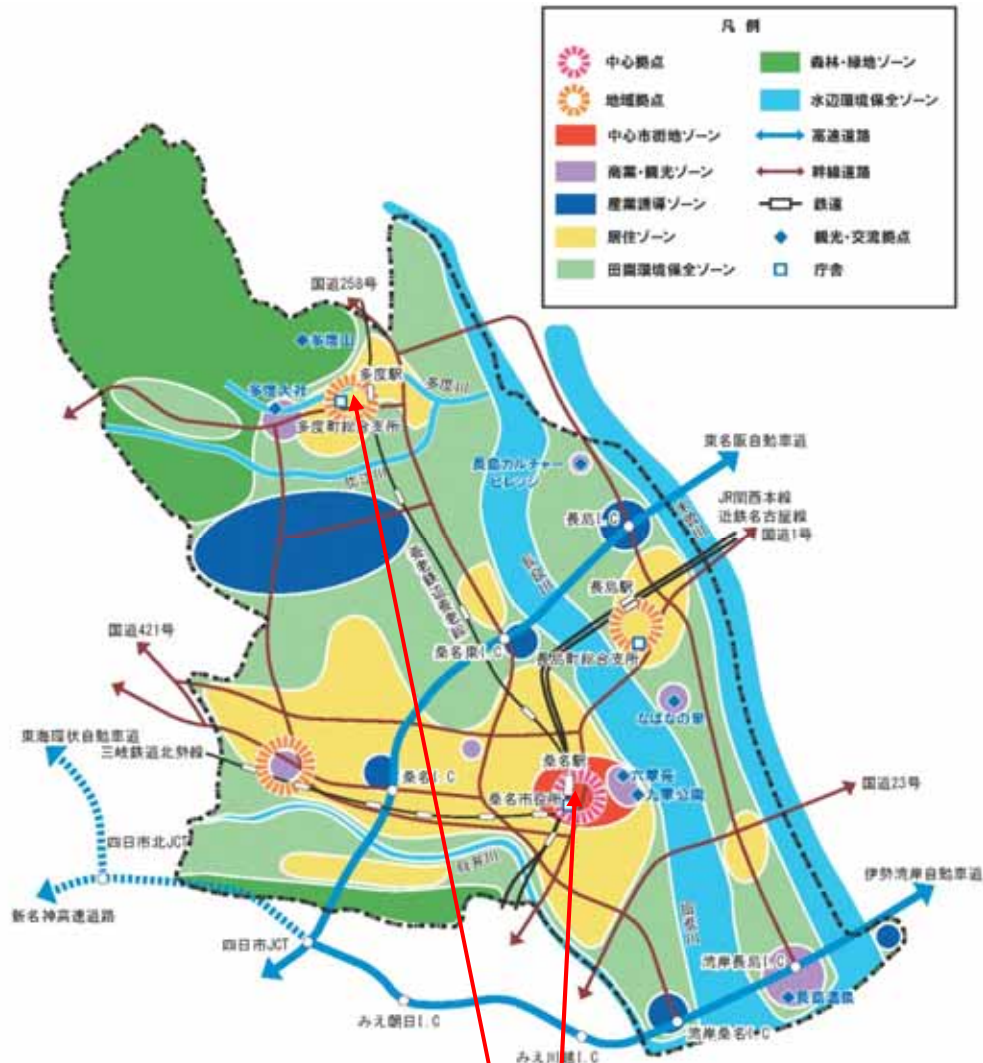
東海環状自動車道西回りの整備、新名神高速道路の亀山以北の整備が進みつつあり、その優位性は一層高まると期待されます。また、将来的にリニア中央新幹線が整備されると、東京（品川）から桑名の移動時間は1時間ほどになると想定されます。

このため、地理的優位性を活かした構想や、まちづくりを進める必要があります。名古屋港、四日市港、中部国際空港とのアクセスの良さも活かし、これらと連携して東海圏のハブシティを目指すことができます。

地理的優位性を活かすために、都市構造としての環境整備をおこないつつ、広域道路網へのアクセス向上および公共交通の活用といった地域交通の円滑化を図り、観光、交流資源の連携、中心市街地の魅力向上などに取り組んでいきます。

### c) 土地利用の方針（基本構想）

桑名駅周辺が中心拠点、養老線多度駅周辺が地域拠点に位置づけられている。



#### 1. 中心市街地ゾーン

桑名駅の東西に形成されている市街地を中心市街地として位置付け、各種都市機能の集積を図り、内外から人が集まる賑わいと活力ある拠点づくりを進めます。

#### 2. 商業・観光ゾーン

商業施設が集積する商業地は、選択性・利便性に富んだ市民の消費生活を支えることができるように、現状の商業・サービス機能の維持・更新を支援します。桑名が誇る観光・交通拠点の魅力を積極的に発信し、広域からの集客を図ります。

#### 3. 産業誘導ゾーン

多度地域の南部やインターチェンジ周辺を産業誘導ゾーンとして位置づけ、自然環境や周辺都市との調和に配慮しながら、産業の誘致及び支援を進めます。

#### 4. 居住ゾーン

生活道路や下水道などのインフラ整備や維持、公園・緑地の適正管理や緑化の推進に努め、快適に暮らせることができる居住ゾーンを形成します。また、少子高齢化と人口減少に伴って発生が見込まれる居住地における空室化及び高齢化への対策を進めていきます。

#### 5. 田園環境保全ゾーン

農産物の生産に努め、農業生産基盤の維持を図ります。また、田園環境を保全しながら、道沿いなど日常生活に必要な生活基盤の整備を進め、居住環境の充実を図ります。

#### 6. 森林・緑地ゾーン

景観や防災、環境保全などの森林が持つ多面的な機能の維持・増進を図るとともに、市民や来訪者が楽しむことができるレクリエーション空間として活用します。

#### 7. 水辺環境保全ゾーン

木曾三川や市街地を流れる河川の貴重な水辺環境を保全するとともに、水産資源を活用した漁業の振興を図ります。河川環境を生かしたうらおいのある観光空間を整備するとともに、地震、風水害に備えた防災対策を強化します。

#### 8. 中心拠点

交通結節点である桑名駅周辺を中心市街地として位置付け、コンパクトな都心を目指すため、機能の再構築を図ります。

#### 9. 地域拠点

地域の日常生活の拠点として、地域コミュニティの維持と良好な居住環境の創出を図ります。

d) 分野別施策（基本計画）

基本計画における分野別施策のうち、公共交通あるいは養老線に関連する部分は以下のとおりである。

○コンパクトで便利ですてきなまちづくり

- ・桑名駅西口駅前広場及び自由通路・橋上駅舎化による交通結節点としての機能強化が施策として位置づけられており、駅利用者数の増加がまちづくりの指標となっている。
- ・多度地区の歴史文化、自然、観光といった資源を整備、発掘し、それらを有効活用した新しい観光の魅力の創出に関する取り組みが位置づけられている。

目指す姿を実現するために必要なのは？

**都市交流拠点の整備**

- 桑名地区の玄関口である桑名駅周辺では、都市基盤や交通結節点としての整備を進めます。また、都市機能の再構築による持続可能な都市をめざします。

にぎわいある中心市街地の整備

- 歴史的、文化的資源を活用した集客・交流機能の整備を進め、安心して誰もが暮らせ、訪れたいくなるコンパクトシティをめざします。

**観光資源の魅力アップ**

- 多度、長島地区の歴史文化、自然、観光といった資源を整備、発掘し、それらを有効活用した新しい観光の魅力を創り出していきます。



車に頼らずに歩いて暮らして、歴史・文化、自然にふれることができるまちには、たくさんの方が来てくれるよね。

**市が取り組みます！**

- 中心市街地の計画をつくる際には、市民の幅広い意見を取り入れて、必要なインフラ整備などを進めます。
- 桑名駅周辺で事業化された事業の進捗状況について情報発信します。
- 歴史的・文化的資源や観光資源などの情報収集と発信をおこないます。

**市民が行動します！**

- まちづくりに関するイベント、活動などに参加して、にぎわいづくりや地域の魅力づくりに取り組みましょう。

まちづくりの指標	指標の説明	平成 25 年度現状	方向性
桑名駅旅客乗車人員数	桑名駅西口駅前広場及び自由通路・橋上駅舎化により、交通結節点として機能強化することで、駅利用者である旅客乗車人員の増加を図ります。	6,084,892人 (平成 24 年度実績)	↗
六車路利用者数	中心市街地のにぎわい創出のため、日城下町における歴史的・文化的資源を活用した集客・交流機能の整備を進めます。	49,582人	↗

## ○人とまちにぎわい支えるバス・鉄道

- ・沿線市町と一緒にあらゆる運営形態を検討し、基幹交通である地域鉄道を支援して鉄道輸送の維持、確保に努めるとされている。
- ・地域の大切な資源である地域公共交通に愛着を感じる「マイレール・マイバス」を高めることで、利用者を拡大し、利用回数が増えるよう努めるとされている。

### 目指す姿を実現するために必要なのは？

#### 鉄道輸送の維持・確保

- 沿線市町と一緒にあらゆる運営形態を検討し、基幹交通である地域鉄道を支援して鉄道輸送の維持、確保に努めます。

#### バス輸送の維持・確保

- 民間バス路線のほか、買い物施設や病院などから離れた地域では、コミュニティバス<sup>※1</sup>などを運行してバス輸送の維持、確保に努めます。

#### マイレール・マイバス意識の向上

- 地域の大切な資源である地域公共交通に愛着を感じる「マイレール・マイバス意識」<sup>※2</sup>を高めることで、利用者を拡大し、利用回数が増えるように努めます。

#### 地域公共交通計画の策定

- 地域公共交通の確保と活性化、低炭素社会（CO<sub>2</sub>の排出が少ない社会）を実現するために地域公共交通計画をつくります。



### 市が取り組みます！

- 公共交通の状況などの情報収集と発信をおこないます。
- 公共交通の利便性向上に努めます。

### 市民が行動します！

- 公共交通の利用を進める取り組みに、理解と関心を持ちましょう。
- バス・鉄道などの公共交通を積極的に利用しましょう。

まちづくりの指標	指標の説明	平成 25 年度現状	方向性
コミュニティバスの利用者数	車を運転できない方や高齢者の方の交通環境を整えるため、コミュニティバスの維持、確保と利便性向上に努めます。	168千人	↗



2) 桑名市都市計画マスタープラン（H20.5：計画期間は約20年、目標数値はH37）

a) 将来像

○将来像

「水と緑と歴史が育む豊かな快適交流文化都市」～住み良さ日本一をめざして～

b) 都市整備の目標

①持続可能な安全で快適な都市環境の形成

- ・政策的な人口増加策と質の高い居住環境の創出
- ・利便性の高いコンパクトな市街地整備
- ・緑地の保全と創出及び水と緑のネットワーク
- ・災害に強い安全なまちづくりの推進

②個性や想像に富んだ観光交流・新産業の発展

- ・新産業の集積を促進する産業ゾーンの形成
- ・地域資源の魅力発揮と観光交流ゾーンの形成

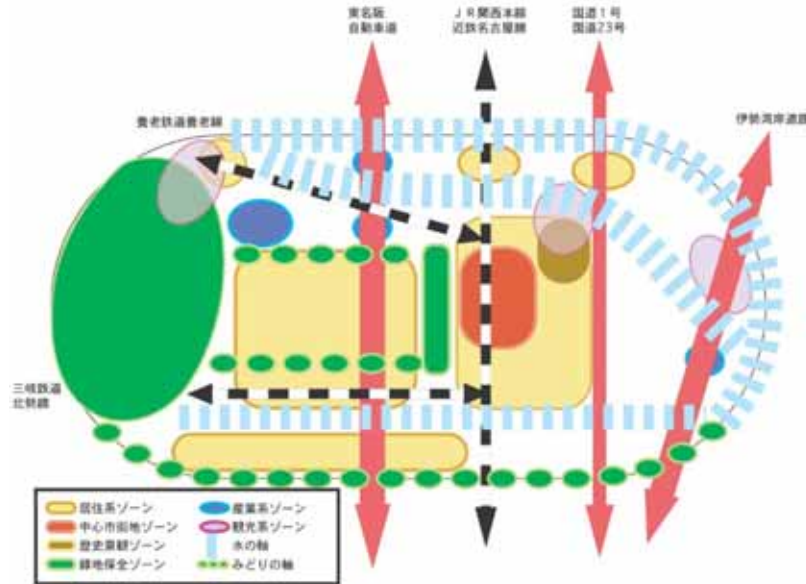
③市民の主体的参加による環境改善の推進

- ・市民の知恵と協力による既存ストックの改善と有効利用
- ・環境改善に向けた自主的な地域活動の推進
- ・地域住民主体のまちづくりの推進体制の整備
- ・魅力のある自立したまちづくりの推進

### c) 将来の都市構造

養老線は広域連携軸（南北軸）に位置づけられている。

また、多度地域が産業系ゾーン、観光系ゾーンに位置づけられている。



#### ◆広域連携軸

##### ①広域連携軸（南北軸）の性格と構成

- ・ 桑名市の広域的な位置づけと生産・物流の機能性を左右する広域的な都市間連携軸の充実を図ります。
- ・ 伊勢湾岸道路（新名神高速道路）、東名阪自動車道、国道1号・国道23号・国道258号といった幹線道路ネットワークとJR線・近鉄線・養老鉄道線の鉄道ネットワークを構成します。

##### ②広域連携軸を生かした機能配置

- ・ 東名阪自動車道の長島インターチェンジ及び桑名東インターチェンジ周辺地区において産業系ゾーンを配置します。
- ・ 伊勢湾岸道路（新名神高速道路）の湾岸長島インターチェンジ周辺地区において観光系ゾーンを、湾岸桑名インターチェンジ周辺地区において産業系ゾーンを配置します。
- ・ 鉄道系のネットワークを生かし、桑名駅周辺地区に商業・サービス・住宅などの各種都市機能の集積拠点となる中心市街地を配置します。

#### ◆都市内連携軸

##### ①都市内連携軸（東西軸）の性格と構成

- ・ 広域連携軸によって期待される波及効果を市域全体に及ぼすために広域連携軸と一体的に都市軸を形成します。
- ・ 市内各地区にある多様な資源をネットワークし、桑名市の個性と魅力を形成する連携軸を充実します。
- ・ 市内の多様な自然をネットワークし、環境負荷の少ない持続可能な都市づくりのための軸を形成します。
- ・ 都市内幹線道路、三岐鉄道北勢線、河川及び連続した緑地によって構成します。

##### ②都市内連携軸を中心とした機能配置

- ・ 広域連携軸と一体化した道路系の連携軸を強化し、多度地域に産業ゾーンを配置します。
- ・ 桑名駅から益生駅周辺の既成市街地地区と西部の住宅市街地、長島地域及び多度地域の市街地間を結ぶ道路を中心とした連携軸の強化を図るとともに、相互を結ぶ水と緑の軸を形成します。
- ・ 城下町地区を歴史景観ゾーンとして位置づけるとともに、水の軸と一体化した観光系ゾーンを形成します。
- ・ 多度地域の市街地ゾーンの門前町と多度山の緑地保全ゾーンの多度山・多度峽を一体化した観光系ゾーンを形成します。

#### d) 交通施設整備の方針

「5-2 交通施設整備の方針」の「3 鉄道駅周辺」において、桑名駅の結節機能の強化が位置づけられている。

また、多度駅南及び下野代駅周辺の活性化と養老線の利用促進を目的として、駅周辺へのアクセス道路の整備、パークアンドライド方式の導入に関する検討が位置づけられている。

##### ① 桑名駅周辺整備

駅西地区の駅前広場の整備にあわせて、現在駅東に集中しているバスターミナルを路線の方向によって駅西と駅東に再配置を進めます。これにより西部方面からのバス路線については、運行時間の短縮と定時制の確保を可能にし、バス路線のサービスの充実を図ります。

駐車場や自転車駐車場（駐輪場）等の交通施設については、今後の利用動向を踏まえつつ、適正な配置及び維持管理に努めます。

また、駅の東西間を結ぶ自由通路を整備し、東西の人の往来を活発にするとともに、三岐鉄道北勢線西桑名駅のホームと駅舎を移設し、桑名駅の利便性の向上を図ります。

さらに、駅東地区のバスターミナルの再編をあわせた駅前広場整備のなかで、イベント開催や人々が滞留できるような魅力的な広場を整備し、人々が集う魅力づくりを進めます。

##### ② JR長島駅周辺整備

駅周辺の放置自転車の解消を図るための自転車駐車場（駐輪場）の整備及びアクセス道路の整備を進め、駅の利便性の向上を図ります。

##### ③ 多度駅南・下野代駅周辺整備

多度駅南及び下野代駅周辺の活性化と養老鉄道養老線の利用促進を目的として、駅周辺へのアクセス道路の整備、パークアンドライド方式の導入について検討します。

### ③ 海津市

#### 1) 海津市総合開発計画（H19.3：計画期間 2007 - 2016）

##### a) まちづくりの目標（基本構想）

###### ○基本理念

- ①「連携」を強める
- ②「活力」を高める
- ③「調和」を育む

###### ○将来像

「協働が生み出す 魅力あふれるまち 海津」

##### b) 土地利用の基本方針（基本構想）

「1 交通ネットワークの整備」において、養老線の運営存続・充実を関係機関に要望していくとされている。

#### 1 交通ネットワークの整備

##### ① 道路網

道路整備の基本方針を、次のように設定します。

- 1 東海環状自動車道・広域幹線道路の整備  
本市の経済力を高め、交流人口を拡大するために、東海環状自動車道の早期整備を引き続き強く要望していきます。  
また、国道258号の全線4車線化、長良川大橋と東海大橋の間への新架橋、主要地方道及び一般県道の整備を国・県に引き続き強く要望していきます。
- 2 本市の交流軸となる幹線市道等の整備  
市内の地域間をつなぐ幹線市道等の整備を進めるとともに、揖斐川の橋梁、県道の整備などを県に要望していきます。

##### ② 公共交通網

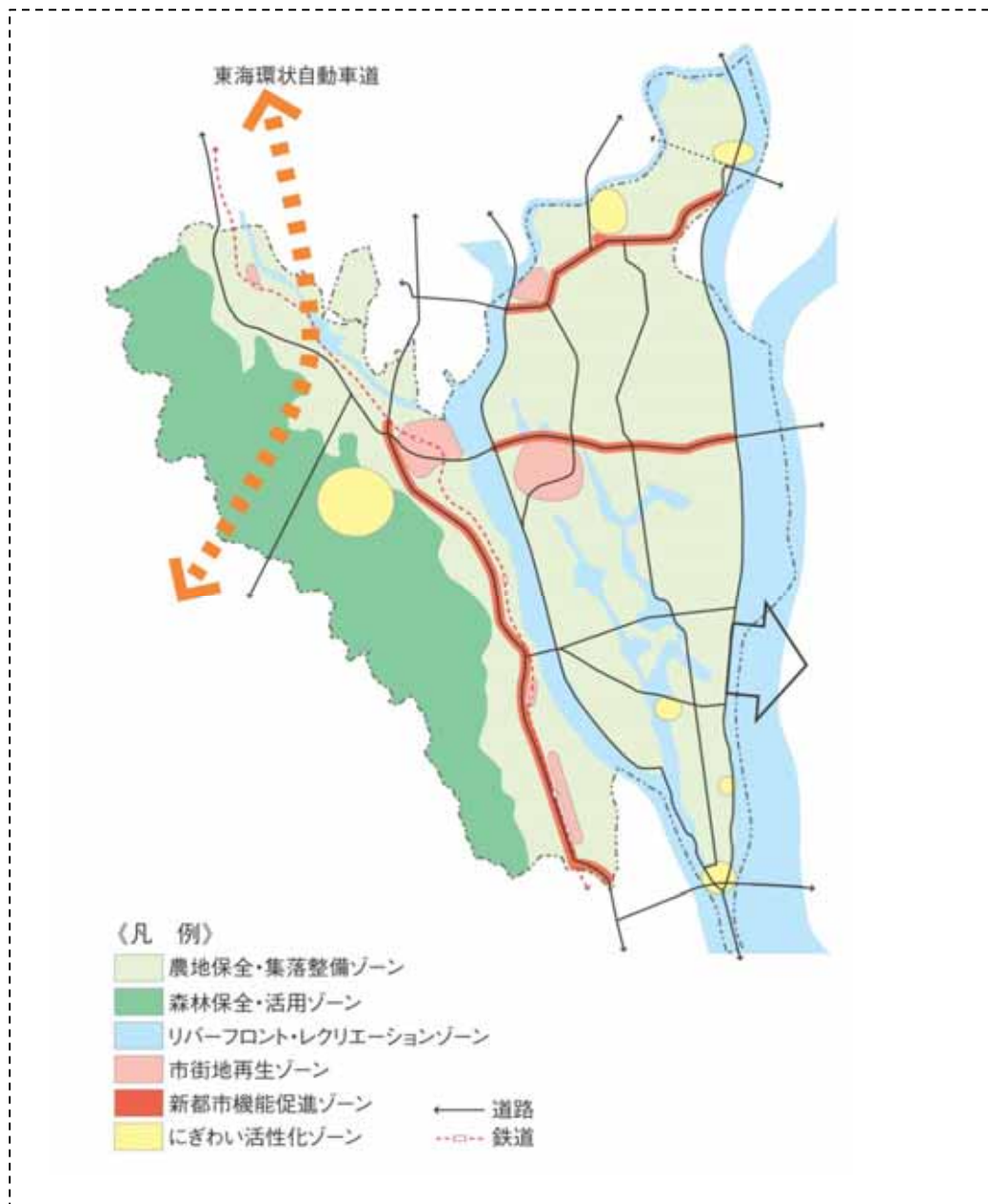
市民、特に高齢者や児童・生徒の貴重な交通機関である近鉄養老線及び既存の民営バスルートの運営存続・充実を関係機関に要望していきます。

また、地域内の\*コミュニティバスを、変化する市民ニーズに合った運行体系に見直し利便性向上を図ります。

コミュニティバス  
一定の地域内を、その地域の交通需要に合わせて運行するバス。

### c) 土地利用構想（基本構想）

養老線の各駅周辺が市街地再生ゾーンとなっている。特に、駒野駅周辺の市街地再生ゾーンは面的広がりを持っている。



d) 公共交通機関の充実（後期基本計画）（計画期間：2012-2016）

「戦略プロジェクト」の「Ⅱ 安全で快適な生活環境のまちづくり」の「4 公共交通機関の充実」において、養老線に関する沿線自治体と協力した運営補助、関係市民と連携したイベント開催等による利用促進が位置づけられている。

また、地元自治会や地域ボランティアとの連携・協働による管理していくとされている。

**基本方針**

養老鉄道や路線バスの存続・充実を関係機関に要望します。

また、地域内のコミュニティバスを市民ニーズに合った運行体系とするよう努め、利便性向上を図ります。

**施策の内容**

①公共交通手段の確保

- 養老鉄道及び路線バスについては、沿線自治体と協力して運営補助を継続するとともに、関係市民と連携してイベント開催や各種切符の発行等を通して利用促進を図ります。

②公共交通の利便性の向上

- 養老鉄道的美濃津屋、美濃山崎、美濃松山の3駅のトイレ及び駅舎、駅周辺広場及び道路については、引き続き地元自治会や地域のボランティアと連携・協働し、快適に利用できるよう管理していきます。
- 市民の利用状況及び要望事項等を踏まえて適切に路線・運行時間・運行方法等の見直しを行い、市民のニーズに合ったコミュニティバスの運行体系を確立し、利便性の向上に努めます。

**施策の成果指標**

成果指標	単位	平成22年 (計画従前値)	平成28年 (計画目標値)
市民アンケート調査で、「公共交通機関（電車・バス）」の「利便さ」について、不満と回答した市民の割合	%	59.1	30.0
指標の説明又は値の計算式	80対20の法則により、10年かけて不満を20%まで下げる目標とし、5年ではその中間の値とする。		
コミュニティバス年間乗客数	人	140,312	140,000
指標の説明又は値の計算式	人口減少の折、現状維持に努める。		

## 2) 海津都市計画区域マスタープラン (H24. 8. 24 変更)

### a) 都市づくりの基本理念

#### ○まちづくりの基本理念

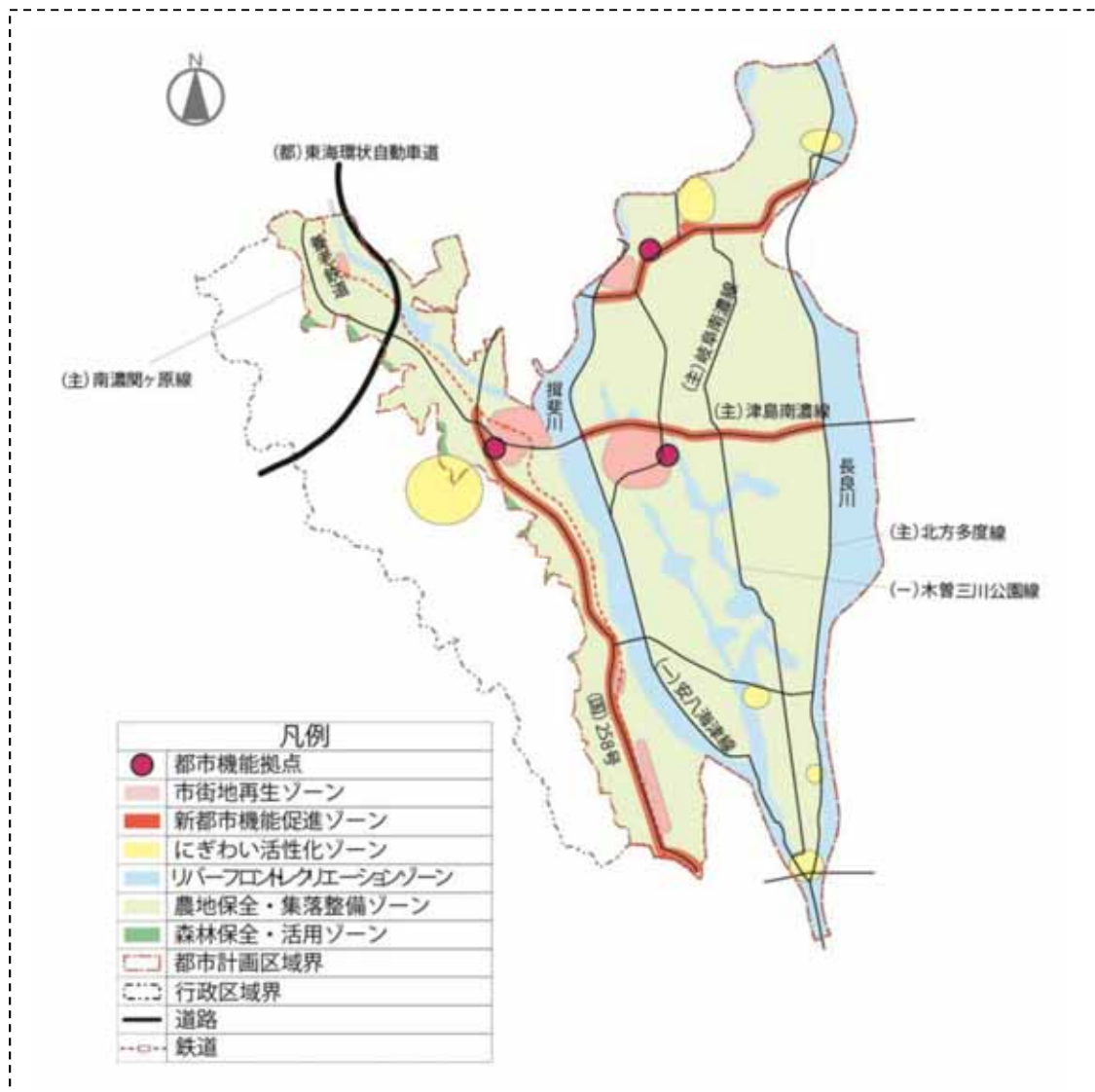
「魅力あふれる心のオアシス」

#### ○まちづくりのテーマ

- ・地域の魅力を活かし、活力を育む土地利用の推進
- ・機能的で暮らしやすい都市施設の整備
- ・暮らしやすい市街地・集落の整備

### b) 地域ごとの市街地像 (まちづくりのイメージ)

養老線の各駅周辺が市街地再生ゾーンとなっている。特に、駒野駅周辺の市街地再生ゾーンは面的広がりを持っている。



### c) 交通施設の都市計画の決定の方針

養老線については、通勤・通学、観光客の誘致等を目的に、乗客サービスの向上、運行本数の増加等を関係機関に要請し、利便性の確保を図るとされている。

#### ①基本方針（鉄道）

- ・養老線が(国)258号と並行し、本区域西部を南北に縦貫しており、大垣駅～桑名駅間を結んでいます。今後とも通勤・通学、観光客の誘致対策を進める上で担う役割は大きく、乗客サービスの向上、運行本数の増加等を関係機関に要請し、鉄道の利便性の確保を図ります

#### ②主要な施設配置の方針（公共交通）

- ・本区域と近隣市町、大垣市、桑名市を結ぶ公共交通機関として養老線を位置付けます。

※養老線に関連する事項を中心に要約



### 3) 海津市地域公共交通網形成計画（H27.7：計画期間 H27 年度～31 年度）

#### a) 地域公共交通の将来像と基本方針

基本方針として養老線のサービス充実（運行本数の維持）、養老線とコミュニティバスの接続強化、養老線石津駅からのコミュニティバスによる観光ネットワークの形成等が位置づけられている。

#### 【地域公共交通の将来像】

「まちづくりと連携して日常生活に必要な公共交通を確保することにより、定住促進・地域の活性化を目指す」

#### ○基本方針①：養老線・名阪近鉄バスのサービスの充実

- ・養老線・名阪近鉄バスの運行本数の維持を関係機関に働きかけ、利便性の確保・サービスの充実を図る。

#### ○基本方針②：養老線・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

- ・養老線・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバス交通結節点の整備、運行ダイヤの調整等により、結節機能強化を図る。

#### ○基本方針③：朝夕の通勤・通学対応と昼間の買物・通院・温泉利用等の市民ニーズ及び観光に配慮した海津市コミュニティバスネットワークの形成

- ・土休日に養老線石津駅や JR 岐阜羽島駅・名鉄新羽島駅からお千代保稲荷へ向かう観光客にも配慮したネットワークの形成を図る。

#### ○基本方針④：公共交通を守り育てる体制づくり

※養老線に関連する事項を中心に要約

## b) 計画の目標

各基本方針に対して以下の目標指標が設定されている（養老線に関連する事項のみ記載）。

### ○基本方針①：養老線・名阪近鉄バスのサービスの充実

#### 《目標指標》養老鉄道・名阪近鉄バス利用者数⇒維持

養老鉄道利用者数（市内乗降者数） 現 状：約2,700人（H24年度）

H31年度：約2,700人

名阪近鉄バス（市内乗降者数）

現 状：約70人（H25年度実態調査）

H31年度：約70人

### ○基本方針②：養老線・名阪近鉄バスと海津市コミュニティバスとの接続強化

#### 《目標指標》公共交通機関相互の待ち時間⇒概ね20分以内

#### ○対象とする交通結節点

- ・養老鉄道：駒野駅、石津駅
- ・名阪近鉄バス：今尾、海津市役所
- ・新幹線：JR岐阜羽島駅
- ・名鉄：新羽島駅

#### 《目標指標》海津市コミュニティバス幹線系統が接続する養老鉄道駒野駅・石津駅の乗降者数⇒維持

駒野駅 現状（H26）平日：900人/日 H31年度：900人/日

石津駅 現状（H26）平日：482人/日 H31年度：490人/日

（H26のデータは、平日の養老鉄道駅別乗降調査結果による）

## c) 公共交通ネットワーク再構築の方針

養老線は広域幹線に位置づけられており、1時間に1便以上の運行本数のサービス水準が設定されている。

### 【 サービス水準 】

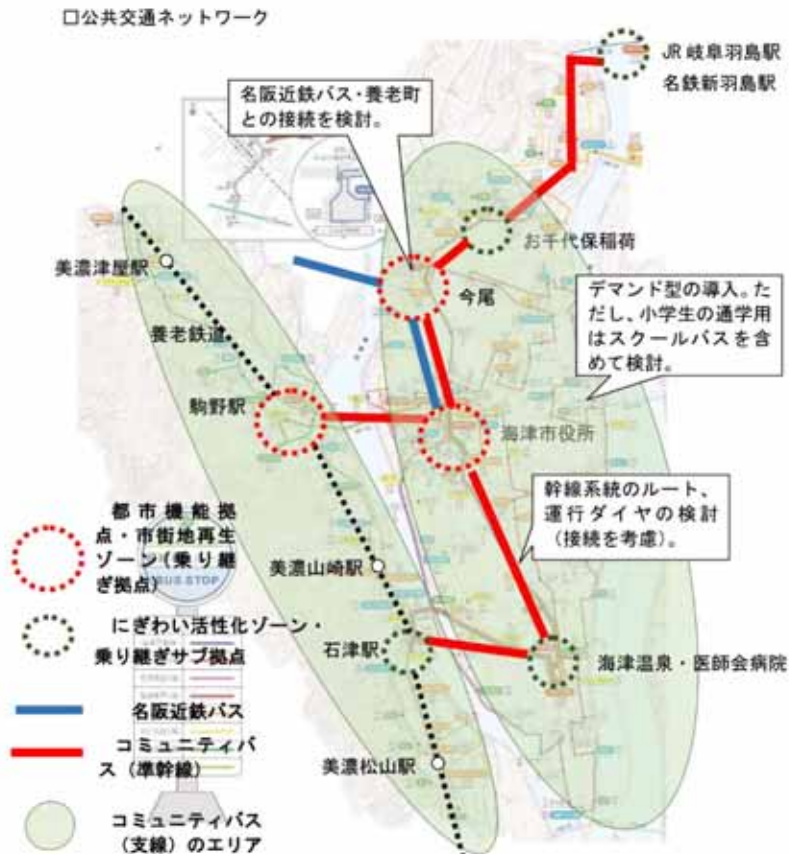
□海津市公共交通の役割分担とサービス水準

	対応	役割	利用目的	サービス水準
広域幹線	養老鉄道 名阪近鉄バス	広域移動	通勤・通学、買い物、 通院、観光等、多目的	朝から夜間まで、 1時間に1便以上の 運行本数
準幹線	コミュニティバス (幹線系統)	市内移動		朝から夜間まで、 1～2時間に1便 以上の運行本数
支線	コミュニティバス (支線系統)	特定区間の 市内移動	高齢者等の買い物・通 院・温泉等	必要な時間帯のみ で、最小限の運行 本数
	タクシー	バス利用困 難な移動	多目的	24時間、随時の運 行

## 【 ネットワーク再構築の方向 】

### ○養老線

- ・ 来客サービスの向上、運行本数の維持を目指す。
- ・ 沿線自治体と協力して運営補助を継続する。
- ・ 市民と連携したイベント開催や各種切符の発行等により利用促進を図る。



## d) 実施事業

養老線の利用促進策として以下の施策が挙げられている。

### 1 養老鉄道・名阪近鉄バスの利用促進事業の実施

#### ■利用促進イベント等の実施【実施主体：養老鉄道、各種団体】

イベント列車の継続実施等、利用促進に努めます。

#### ■名阪近鉄バスのパーク・アンド・ライドの検討【実施主体：名阪近鉄バス、津山市】

パーク・アンド・ライド駐車場の確保を検討し、利用増につなげます。

### 2 交通結節点の整備

#### ■養老鉄道駅の交通結節点整備【実施主体：津山市、養老鉄道】

養老鉄道駅へのアクセス利便性を高めるため、駐車場、駐輪場等の整備を推進します。

石津駅では駐輪場・ロータリーの整備、美濃松山駅では駐輪場を整備します。

#### ④ 養老町

##### 1) 養老町第五次総合計画（H23. 3：計画期間 H23 年度～32 年度）

###### a) まちづくりの目標（基本構想）

###### ○基本理念

「みんなで力をあわせる絆のまちづくり」

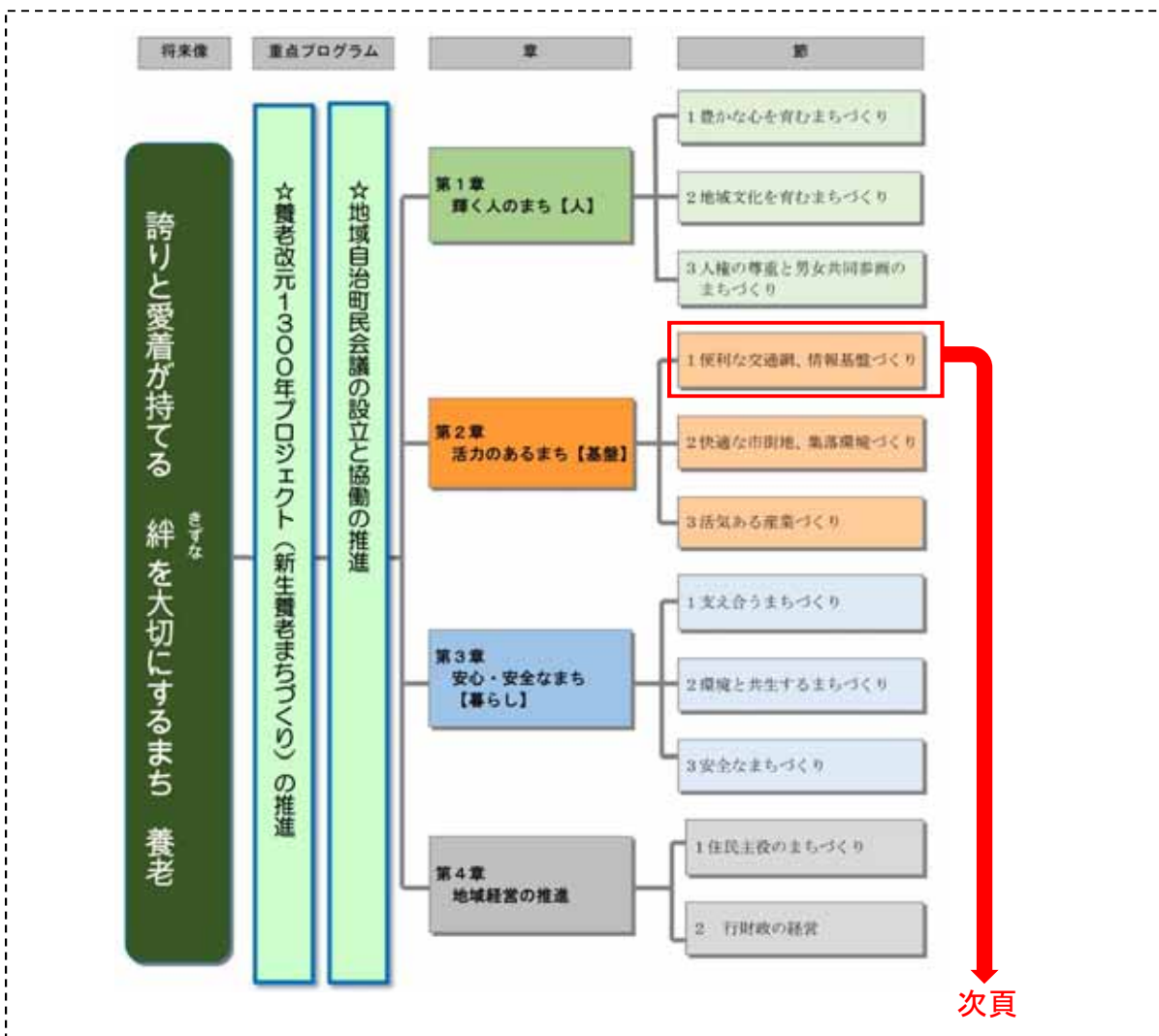
###### ○将来像

「誇りと愛着が持てる 絆を大切にするまち 養老」

###### b) 分野別計画（後期基本計画）（計画期間：H28 年度～32 年度）

「第2章 活力のあるまち」の「1 便利な交通網、情報基盤づくり」において、養老線の乗降客数（H32）として3,000人/月（H20.11から13%増）の目標値が示されている。

それに向けての施策として、総合交通計画の策定、P&R対応の駐車場整備、住民の「養老鉄道を守る会」への参加の呼びかけ等が位置づけられている。



## 施策の目指す姿

養老鉄道や自主運行バスに加えて、オンデマンドバスの利用促進を進め、総合的な交通体系の確立を目指します。

目標指標	基準値	中間値	目標値
	2009(平成21)年度	2014(平成26)年度	2020(平成32)年度
公共交通機関に満足している人の割合	42.7 (%)	48.3 (%)	60.0 (%)
養老鉄道乗降客数	2,652人 (平成20年11月)	2,354人	3,000人
オンデマンドバスの利用者数	34,771人/年 <small>※公共施設巡回バス利用者数</small>	31,356人/年	36,500人/年

## 基本施策の内容

### ①総合交通体系の確立

高齢化の進行や地域活性化に対応した町の総合的な交通体系の確立を目指して、法定地域公共交通協議会を設置し、道路網や公共交通のあり方などの指針となる総合交通計画を策定します。

#### 【新生養老まちづくり構想における基本方針】

- 方針1 養老の郷づくり

#### 【総合戦略における具体的な施策】

- 交通ネットワークの維持・充実（地域公共交通網の形成）

### ②公共交通機関などの維持

養老鉄道を守る会への町民の参加を促し、利用促進の取り組みを強化するとともに、パーク&ライドが円滑にできるよう、駅周辺の駐車場整備を検討します。

また、オンデマンドバスのサービスの向上と利用促進を図るとともに、近隣市町や交通事業者などと連携し、広域における交通体系を充実します。

#### 【総合戦略における具体的な施策】

- 交通ネットワークの維持・充実（養老鉄道の維持・利用促進、オンデマンドバスの利用促進）

## 住民等との役割分担

町民は、養老鉄道や路線バス、オンデマンドバスなどの公共交通が自分たちの生活を支えている交通機関であることを再認識し、積極的に利用することが望まれます。

## 2) 養老都市計画区域マスタープラン (H24. 8. 24 変更)

### a) 都市づくりの基本理念

#### ○都市づくりの基本理念

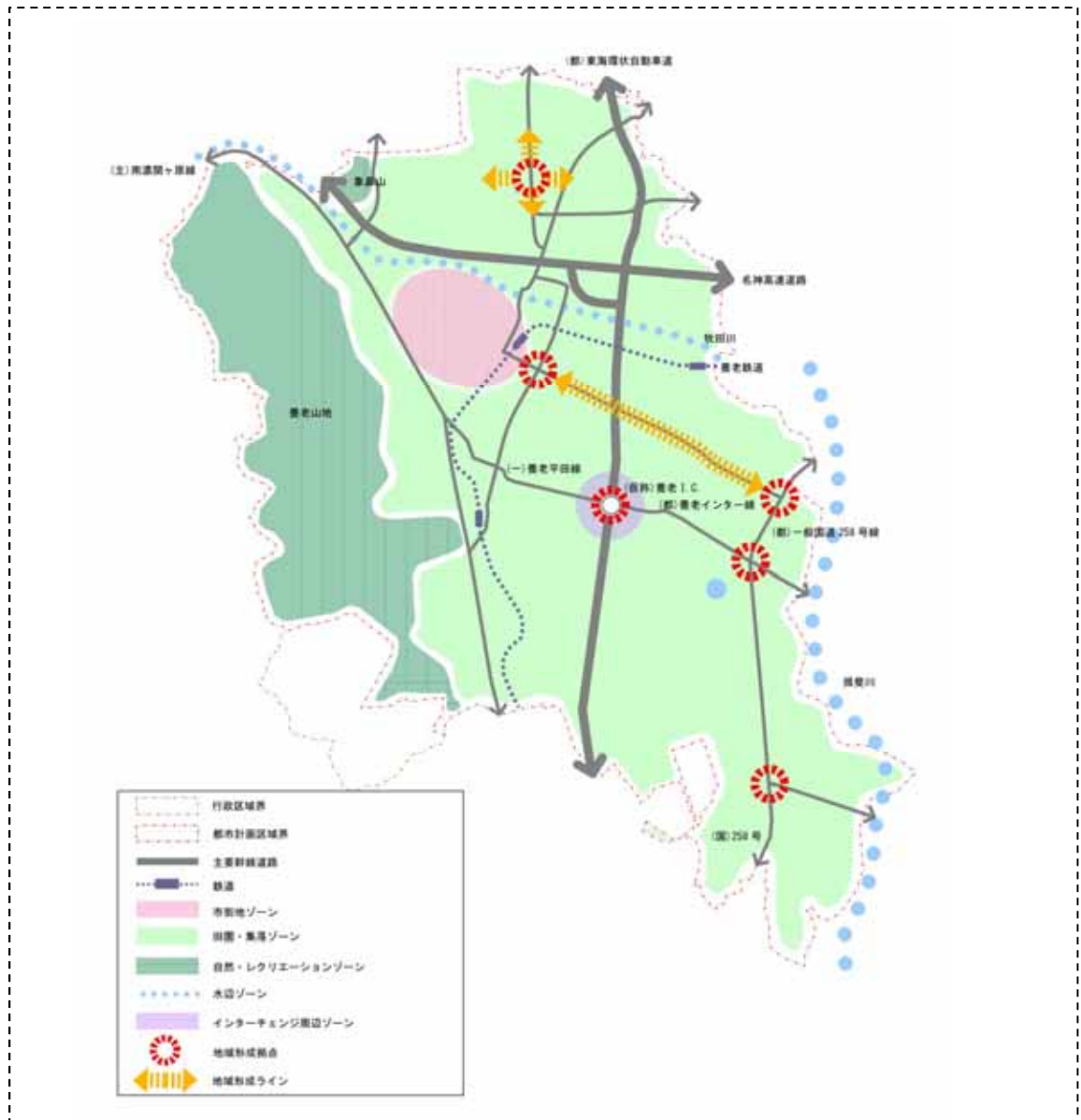
「人が織りなす 輝くまち 養老」

#### ○まちづくりのテーマ

- ・安全・快適で個性豊かなまちづくり
- ・活力ある産業を支えるまちづくり
- ・笑顔・生きがい・思いやりがあふれるまちづくり

### b) 地域ごとの市街地像 (まちづくりのイメージ)

現在の町中心部である養老線美濃高田駅周辺が、市街地ゾーン、地域形成拠点に位置づけられている。



### c) 交通施設の都市計画の決定の方針

養老線については、駅前広場等駅周辺環境の整備による結節機能強化等の方向が位置づけられている。

また、関係機関に輸送力強化を要請するとされている。

#### ①基本方針（公共交通）

##### ○公共交通機関の充実と道路網との一体性確保

- ・ サービス水準の高い公共交通機関の充実、駅前広場整備等による鉄道との連絡性強化を図る。
- ・ コミュニティバスに関しては、路線維持に努めるとともに、地域住民の意向や幹線道路の整備等を考慮しながら、より利用しやすい路線網の構築を検討する。

##### ○利用者に配慮した交通施設の整備

- ・ 高齢者や障がい者をはじめ、利用者にとって安全かつ快適な交通施設の整備を図る。

#### ②主要な施設配置の方針（公共交通）

##### ○鉄道

- ・ 牧田川や市街地の南側及び養老山地に沿って走る養老線を、住民をはじめ多くの人々にとって利便性の高い交通手段としての活用を促進するため、関係機関に輸送力強化を要請する。

##### ○その他

- ・ 養老線の駅前広場等の駅周辺環境の整備に努める。

※養老線に関連する事項を中心に要約

⑤ 神戸町

1) 神戸町第四次総合計画（H19.3：計画期間 H19～H28）

a) 神戸町の将来像（基本構想）

○将来像

「みんなで創る元気・快適・いきいきタウン」

【みんなで創る】住民と行政が協力・連携した「協働」のまちづくり

【元気】まち全体に活力があふれるまちづくり

【快適】まち全体が安全で、暮らしやすく、きれいなまちづくり

【いきいき】みんなが健康で、いきいき輝くまちづくり

b) 神戸町の将来像（基本構想）

養老線広神戸駅周辺が住宅・商業ゾーンに位置づけられている。





c) まちづくり指標（後期基本計画）（計画期間：H24～H28）

「まちづくり指標の見直し」の「目標6 快適な生活を支えるまちづくり」において、養老線の利用者増加が目標として示されている。

また、そのための施策として、公共交通機関の利便性アピール、モビリティ・マネジメント、養老鉄道マイレール連絡協議会などの活動支援が位置づけられている。

[基盤整備]

### 目標6 快適な生活を支えるまちづくり

#### 施策1 道路・交通体系の整備

##### ■まちづくり指標

##### 1. 広域幹線道路の整備

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値 <small>（平成19年計画策定時）</small>	5年後の目標値 <small>（平成23年度実績値）</small>	10年後の目標値 <small>（平成28年度目標値）</small>
幹線道路の整備状況に満足している割合	〔アンケート〕神戸町から他市町へ車で移動するときスムーズに移動することができたと感じている住民の割合（％）	74.5	→	→
			75.4	↘

##### 2. 生活道路の整備と維持管理

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値 <small>（平成19年計画策定時）</small>	5年後の目標値 <small>（平成23年度実績値）</small>	10年後の目標値 <small>（平成28年度目標値）</small>
道路維持管理に関する要望件数	各区からの道路整備に対する要望件数及び住民からの苦情件数（件/年）	203	180	150
			192	150
道路の整備状況に対する満足度	まちづくり住民アンケート調査における「道路の整備状況」に対する住民の満足度（％）	45.0	→	→
通学路の安全性が確保されていないと感じている児童・生徒の割合	〔アンケート〕1年間に通学路で交通事故にまきこまれそうになったことがある児童・生徒の割合（％）	10.5	→	→
			15.0	↘

##### 3. 公共交通網の充実

まちづくり指標名	説明（単位）	現状値 <small>（平成19年計画策定時）</small>	5年後の目標値 <small>（平成23年度実績値）</small>	10年後の目標値 <small>（平成28年度目標値）</small>
養老鉄道乗降客数	広神戸駅・北神戸駅・東赤坂駅で乗り降りする1日あたりの合計客数（人）	2,000	2,200 2,027	2,400 2,100
名阪近鉄バス乗降客数	町内バス停留所（7カ所） <sup>※</sup> で乗り降りする1日あたりの合計客数（人）	29	35	40
			27	35

※ 平成23年度では5カ所

##### ■基本方針（役割分担）

町の役割	住民の役割
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画的に道路が整備できるよう関係機関に働きかけます。</li> <li>・ 道路整備についての情報提供を行います。</li> <li>・ 道路などの適正な維持管理を行います。</li> <li>・ 道路の清掃などについて、住民の協力が得られるよう働きかけます。</li> <li>・ 交通安全施設の整備と適正な維持管理を行います。</li> <li>・ 歩行者の安全な通行を確保します。</li> <li style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ 公共交通機関の利便性をアピールします。</li> <li style="border: 1px solid red; padding: 2px;">・ モビリティ・マネジメントの普及啓発活動を推進するとともに、養老鉄道マイレール連絡協議会<sup>※</sup>などの活動を支援します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ すべての主体は・・・</li> <li>・ 道路などの損傷状況について情報を提供します。</li> <li>・ 道路などの清掃・除草に協力します。</li> <li>■ 個人・家庭は・・・</li> <li>・ 道路の整備について理解を深め、協力します。</li> <li>・ 公共交通機関を利用します。</li> </ul>

※養老鉄道マイレール連絡協議会

将来にわたって地域に根づいた鉄道として存続維持が可能な環境を整えるため、沿線各市町または養老鉄道が推薦する住民によって組織する団体で構成された協議会

⑥ 揖斐川町

1) 揖斐川町第二次総合計画（H28.3：計画期間 H28～H37）

a) まちの将来像と基本目標（基本構想）

○まちの将来像

「自然健幸のまち いびがわ」

○基本目標

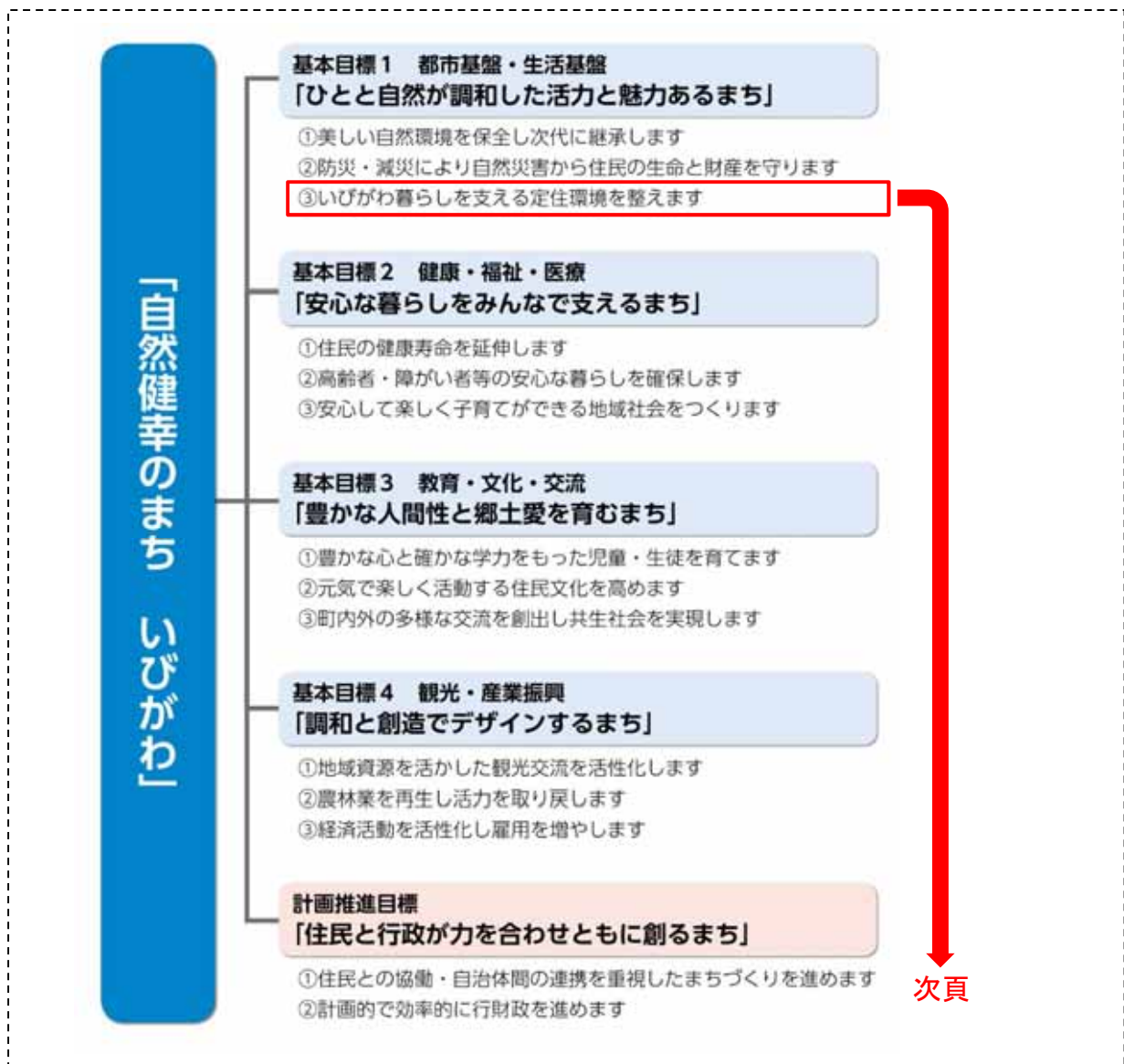
【都市基盤】ひとと自然が調和した活力と魅力あるまち

【健康・福祉・医療】安心な暮らしをみんなで支えるまち

【教育・文化・交流】豊かな人間性と郷土愛を育むまち

【観光・産業振興】調和と創造でデザインするまち

b) 施策体系（基本計画）



### c) 具体的施策（基本計画）

「基本目標 1 ひとと自然が調和した活力と魅力あるまち」の「方針 3 定住環境の整備」の「道路・交通環境の充実」において、養老線のさらなる利便性の向上や利用促進による維持が位置づけられている。

<b>(1) 安全な道路環境の提供</b>	
○防護柵・待避所の整備や除雪事業を行うとともに、年間を通じてトンネルや橋などの道路構造物のメンテナンスを定期的を実施し、安全で快適に走行できる道路環境を整備します。	建設課
<b>(2) 幹線道路の整備と道路ネットワーク化の推進</b>	
○身近な生活道路の改修を進めるとともに、東海環状自動車道の整備を見据えた道路基盤の整備を行い、国道道、町道、農林道等のネットワーク化を図ります。	建設課 農林振興課
<b>(3) 歩行者や自転車の安全性確保</b>	
○交通安全施設や防犯灯のLED化及び街路灯の整備を行うとともに、警察や関係団体等と連携した地域の交通安全・防犯活動を推進します。また、生活に密着した道路舗装の長寿命化を図り、生活道路の整備を推進します。	総務課 建設課
<b>(4) 公共交通の堅持・利便性向上</b>	
○利用者の需要やニーズを踏まえ、コミュニティバスの運行改善を図るとともに、デマンド型など新たな公共交通のあり方を検討し、地域の移動を支える公共交通の利便性を高めます。	政策広報課
○養老鉄道・樽見鉄道やコミュニティバスなどの公共交通は、地域住民の生活を支える重要な移動手段であるため、更なる利便性の向上や利用促進に取り組み、将来にわたり公共交通を維持していきます。	政策広報課

## 2) 揖斐都市計画マスタープラン (H24.12 変更：目標年次 H22)

### a) 都市づくりの理念と目標

#### ○都市づくりの理念

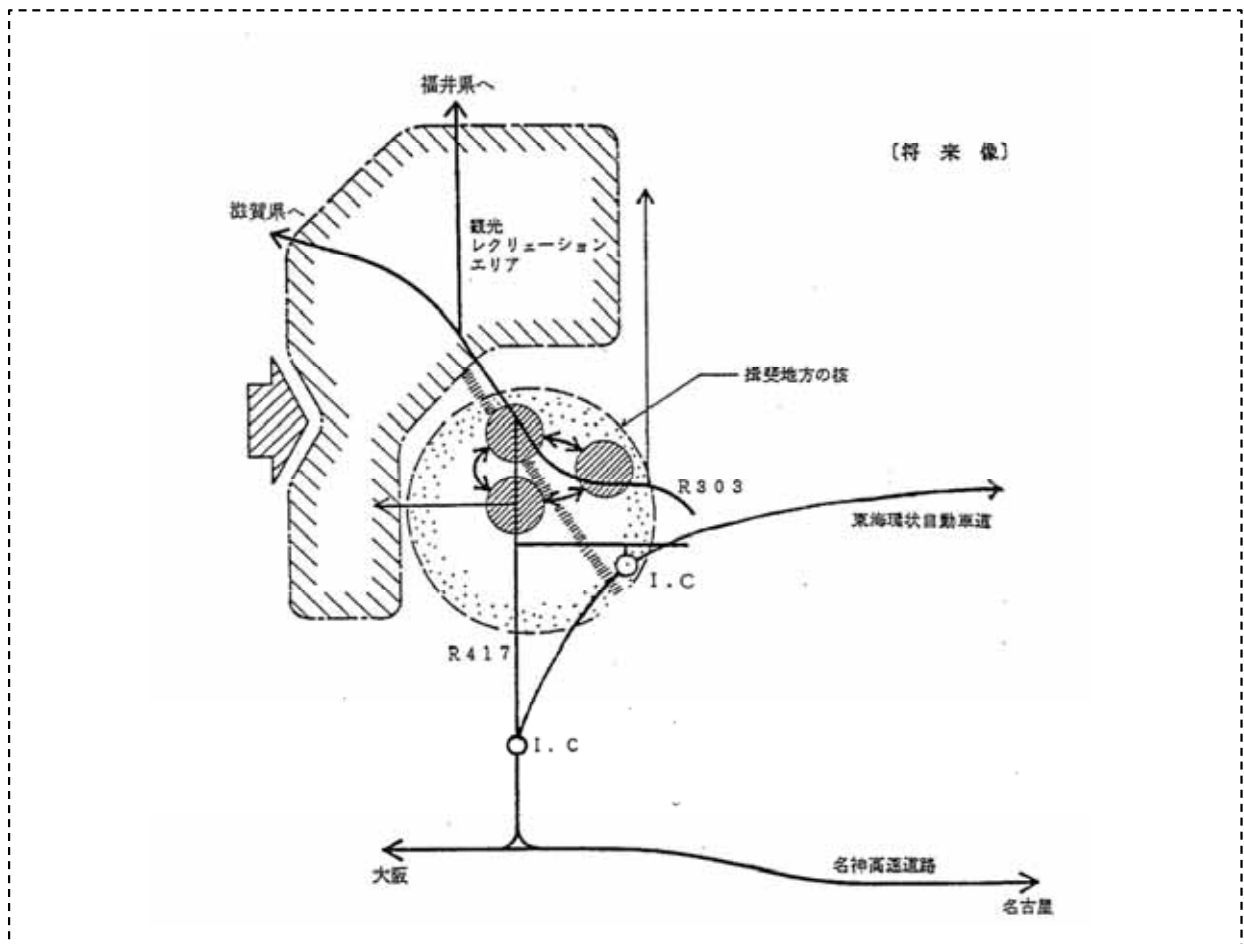
「水と緑に抱かれた新郷土文化圏の形成をめざし

音色豊かなトライアングル（健康・夢・愛）都市の建設」

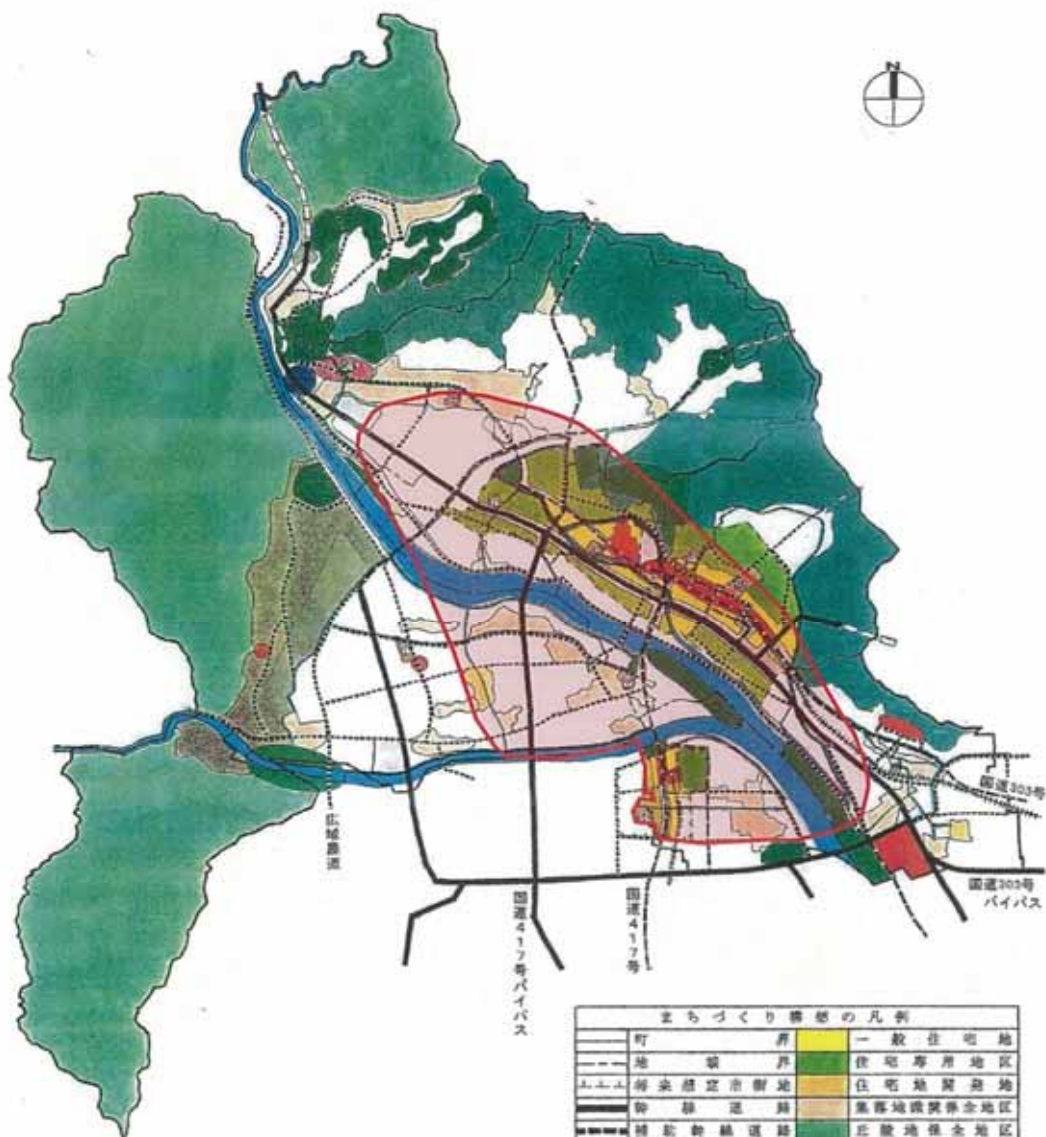
#### ○都市づくりの目標

- ① 揖斐川等の河川や県立自然公園の緑を生かした水と緑と共生するまちづくり
- ② 揖斐川文化圏の中核都市として都市間の交流を育むまちづくり
- ③ いにしへの薫ある伝統文化と情報文化の融合による新郷土文化の創造をめざすまちづくり
- ④ 東海環状自動車道を骨格に活力ある地域産業の創造をめざすまちづくり
- ⑤ 高齢者や障害者も健康で安心して暮らせる快適で安全なまちづくり
- ⑥ 良好な居住環境や一体的農地が確保され、土地の合理的利用に配慮したアメニティ豊かなまちづくり

### b) 将来の都市構造



# 揖斐川町全体構想図



まちづくり構想の凡例

町界	一般住宅地
地域界	住宅専用地区
U.U.U	住宅地調整地区
幹線道路	集落地域調整地区
補助幹線道路	庄園地保全地区
主要区画道路	丘陵地保全・利用地区
歩行者道	多自然環境保護地区
水田	緑地地区
① 農・林・水・地・大	商業・業務調整地区
公園・緑地	工業地
地域コミュニティ創出地区	その他施設用地
広域的利便施設整備地区	用途地域指定検討区域

### c) 施設整備の方針（公共交通）

公共交通については連携や駅周辺整備の促進が位置づけられおり、養老線については揖斐駅の駅前広場及びその周辺整備が位置づけられている（駅前広場は整備済み）。

#### ① 基本方針

地域内の公共交通機関としては鉄道とバスがあるが、自動車の普及等の理由で利用状況が減少している。

しかし、公共交通機関は日常生活における基礎的な交通手段であり、経済性、安全性を再認識するとともに高齢社会に対応して、関係機関に対して輸送力の強化及びサービス水準の向上を強く要望する。

また、利用客の拡大には、定住人口、交流人口の増大は重要であり、魅力あるまちづくりを積極的に進めるとともに利便性の向上を図るため公共交通機関の連携や駅周辺の整備を促進する。

#### ② 整備方針

イ、大量・定時輸送が可能な鉄道は、交通混雑の解消、通勤、通学の足として、また高齢化社会においてその役割は大きく、これからも公共交通機関の中心として位置づけ、利用客の拡大を図るために沿線市町村と連携しながら、朝夕の増発、時間短縮など輸送力の強化及びサービス水準の向上を関係機関に強く働きかける。

また、定住人口、交流人口の増大も利用客の拡大には不可欠な要因であるため、自然環境の保全、住環境の充実、産業基盤の強化、文化レベルの向上、商業の活性化、地域資源の有効活用などを積極的に取り組み、魅力あるまちづくりを進める。

今後、高齢社会において地域内の各公共公益施設の連絡性の向上のため、循環バスを積極的に検討する。

ロ、公共交通機関の利用客の利便性の向上を図るため、公共交通機関の連携の促進や鉄道駅との連絡向上のため、駅前広場およびその周辺整備を促進する。

- ・ 揖斐川町…… 近鉄揖斐駅
- ・ 大野町…… 名鉄黒野駅
- ・ 池田町…… 近鉄池野駅

⑦ 池田町

1) 池田町第五次総合計画（H22.3：計画期間 H22～H31）

a) 池田町の将来像（基本構想）

○将来像

「いきいきと市民がつながり、夢が持てる自然都市」

○基本理念

【安心】 災害や将来の生活に対して不安がなく暮らせるまち

【未来】 子供や若者が未来に対して夢や希望が持てるまち

【健全】 効率的な行政経営がなされ健全な財政となっているまち

【活力】 地域の資源が生かされ人や産業に活気のあるまち

【快適】 豊かな自然環境が保全され心地よく暮らせるまち

【生きがい】 世代・性別・障害の有無にかかわらずいきいきと暮らせるまち

b) 土地利用構想（基本構想）

養老線西側が商業ゾーンに位置づけられている。



【凡例】

	主要な道路（国道）		農地・集落地地
	主要な道路（県道）		農業振興ゾーン
	主要な道路（町道）		工業ゾーン
	主要な道路（構想）		商業ゾーン
	鉄道		住宅ゾーン
	主要な河川		市街地
	保全林		公共ゾーン
	学習・交流・健康文化ゾーン		

### c) 理念ごとの計画（基本構想）

「理念ごとの計画」の「安心」の「観光交流と地域産業の進展」において、「町民が安全に移動しやすい環境を整備する」施策として養老線の環境整備が位置づけられている。

## 【施策】 町民が安全に移動しやすい環境を整備する

### 社会背景

移動の目的は、生活、観光、通過とさまざまです。さまざまな移動手段を柔軟に考えることにより、円滑で快適な交通の確保とともに、交通弱者をはじめとするすべての利用者の視点に根ざした公共交通の体系を考える必要があります。

### 町の現状と課題

池田町内の公共交通機関は、養老鉄道と路線バスがあり、特に通勤、学生の通学手段や池田町を訪れる人の交通手段として重要な役割を果たしておりますが、利用者の減少もあり存続に向けて引き続き利用促進と沿線市町による支援を行っていく必要があります。また、安全で便利な移動確保のために道路新設や整備、歩道の新設など安全な道路環境を作り上げていきます。交通弱者に対しては、自主運行バスによる運行委託や地域の実情にあわせた生活交通の確保など多様なニーズに的確に対応し、安全に移動しやすい仕組みをつくる必要があります。

### 施策の体系

町民が  
安全に移動しやすい  
環境を整備する

公共交通環境を整備する

〈主な事業〉養老鉄道活性化支援事業、鉄道利用促進事業  
交通安全施設整備事業

交通弱者が移動しやすい仕組みをつくる

〈主な事業〉道路環境整備事業、自主運行バス事業





### c) 交通施設の都市計画の決定の方針

養老線については、運行維持に努めるとされている。

#### ①基本方針（公共交通）

公共交通機関としての鉄道は、高齢社会において交通弱者に対する重要な施設であることから、その維持に努める。バスについては、現行路線バスの維持、コミュニティバスの現状運行の維持、新たな路線の検討等、サービスの向上に努める。

#### ②主要な施設配置の方針（公共交通）

鉄道については、養老線が運行されており、本区域内には 4 駅が設置されている。今後とも、住民の通勤・通学又は観光客の足としての役割を担う公共交通機関として位置付ける。

※公共交通に関連する事項を中心に要約